

# 情報発信ステーション

KANEDA HOSPITAL

<http://www.kaneda-hp.com>

特定医療法人緑社会  
理事長・金田病院長

金田 道弘

昨年2006年は、理事長就任20年目の私にとって試練の一年になるものと、覚悟を決めてのスタートでした。同4月1日には史上最大の診療報酬マイナス改定3.16%が実施され、7月1日には療養病床の大幅なマイナス改定も行われました。今までに経験したことのない厳しい経営局面が目前に迫りつつあるのが病院界の現状です。今回の情報発信ステーションでは、激動の2006年を振り返るとともに、2007年以降の医療状勢の展望と金田病院の経営方針・事業計画について申し上げます。

激動の時代を  
エネルギーに

金田病院では、2005年度を「改革対処準備の年」、2006年度を「改革実施の年」と位置づけました。昨年のスローガンは「変革の時代に応える 信頼医療」、健全経営の堅持と安心医療の可視化に重点を置きました。厳しい経営環境でしたが、おかげさまで計画した経常利益、事業計画を達成することができました。

「3年後、病院界は焼け野が原になるでしょう。」—この衝撃的な言葉は、昨年12月9日岡山で開催された「せとうちホスピタルマネジメントセミナー」で、今後一層厳しくなる病院の経営環境を表現した言葉です。講師は、昨年春まで国立保健医療科学院 医療政策部長を務めた長谷川敏彦・日本医科大学教授でした。

私たちは今こそ危機意識を共有し、組織改革と発展のエネルギーにしたいと考えます。

(財)日本医療機能評価機構認定病院 (社)日本病院会 人間ドック・健診施設機能評価認定病院  
特定医療法人 緑社会



## 金田病院

〒719-3193 岡山県真庭市西原63 TEL(0867)52-1191(代) FAX(0867)52-1917 <http://www.kaneda-hp.com>

毎月第4土曜日は休診です。(呼吸器内科は診療いたします。)

救急患者さまは、日曜、休日を問わず24時間体制で **0867-52-1191** で受け付けています

## 2006年の事業概要と病院の変化

1. 透析室の移転・整備・拡充を行い、1月19日に川崎医科大学腎臓内科教室・柏原直樹教授と佐々木環教授のご臨席のもと開所式を行いました。

2. 2月には病院機能評価の更新審査（バージョン5）を3日間にわたり受け、532項目に及ぶ厳正な審査の後、初回審査で見事合格することができました。中でもよく勉強する病院として高い評価（最高評価・5）をいただけたことは私たちの大きな励みになりました。審査の席上、院長に対する質問の中で金田病院の特徴について尋ねられました。私は迷わず、

① 職員のあたたかさと秘めたエネルギー

② 健全性

③ 病院食の美味しさ

の3点と答えました。

3. 7月に岡山市で開催された第56回日本病院学会では金田病院から8つの演題を発表しました。発表直後に当院のコンシェルジュは石川県の病院から講演依頼をいただき、9月にその病院を訪れ、2回に分けて延べ370名の職員の皆様に当院の取り組みについて紹介させていただきました。また、11月には第5回院内研究発表会を開催しました。1年間の法人全体の研修実績は、学会・研究会発表…24回、講演…4回、インストラクター等…11回、院内勉強会…42回でした。

4. 10月からの入院の方の食費・居住費の付加徴収開始に備え、より安全でさらに美味しい病院食実現のため、食材の仕入先の選定方法を見直しました。11月から発行した情報発信ステーション・栄養課版「栄養課からこんにちは」は好評をいただきました。また、当院栄養サポートチーム（NST）が、第三者評価機構である日本栄養療法推進協議会から第一回施設認定をいただくことができました。

5. 病院見学にえられる医療機関が急増しているのも最近の変化の一つです。10月から3か月間に岡山市内をはじめ県内6病院から病院見学に來られました。その目的は

① 病院機能評価受審準備

② 人間ドック機能評価受審を目指して

③ 栄養サポートチーム（NST）

の順でした。

はるばるの見学にきてくださった病院は、いずれも私たちと同じように今試練に立ち向かっている地域を代表する民間病院ばかりでした。

激動の2006年をこのように乗り越えることができたのは、地域の皆様のアたたかいご支援と、職員の地域医療への熱い思いと協力があればこそであり、深く感謝いたします。

## 2007年 改正医療法と当院の役割

わが国の社会保障制度は、急速な少子高齢化の進行と危機的な財政状況により混迷を極めています。これを持続可能なシステムにするため、国は5カ年計画で社会保障費を1兆1千億円削減する方針です。医療費削減施策とは、患者自己負担の増加、医療機関受診の抑制、入院日数の短縮、在宅医療の推進等で、それらの結果、病院機能の集約化・病床数削減がさらに進むものと考えられます。

2007年4月1日施行の改正医療法の柱は、  
① 医療計画制度の見直しを通じた医療機能の分化・連携の推進

② 地域や診療科による医師不足問題への対応

③ 医療安全の確保

④ 医療従事者の資質の向上

⑤ 医療法人制度改革

⑥ 患者等への医療に関する情報提供の推進

以上の6点にまとめられます。「安全」、「情報」、「連携」の3つがこれからのキーワードです。

金田病院の今後を考える上で、情報化・医療連携の流れの中で真庭保健医療圏における中核的役割と共に、岡山県北、岡山県全体から見た当院の存在意義も視野に入れ創造していく必要があります。金田病院の生きる道がそこにあると考えます。

## 2007年以降の 医療制度改革

今後数年以内に待ち受けている医療制度改革には次のものがあります。

### 2007年4月

医療機関の広告規制の緩和、医療計画制度の見直し、医療法人制度改革（社会医療法人の創設等）、がん対策基本法施行

### 2008年4月以降

後期高齢者医療保険制度創設（75歳以上）、70歳から74歳の自己負担増加、診療・薬価・介護報酬の改定、医療費適正化5カ年計画スタート

### 2010年

DPC制度の見直し  
(DPC: Diagnosis Procedure Combination, 診断群分類別包括評価)

### 2011年

レセプトオンライン化完全施行

### 2012年

介護療養病床廃止  
(当院は医療療養病床)

2007年度は、複数年度にわたる事業計画の策定が必要となってきました。

## 2007年の 当院の方針

内閣府の経済財政諮問会議や厚生労働省の動向、岡山県地域医療計画の進行状況、診療報酬改定の動向に加え、真庭保健医療圏の人口構成、疾病構造と、当院の常勤医師の充足度等を含めて、地域における当院の役割を総合的に判断し、これからの金田病院の経営規模を策定します。

### 2007年の事業計画

①常勤医師の確保・充足  
②DPC準備病院となり、DPCへの参加準備

③地域医療支援病院の検討

④社会医療法人の検討

⑤5カ年次経営計画の策定

⑥国の医療費削減計画に沿った2007年度経営計画・事業計画の作成

⑦既存組織と担当業務の見直し、統廃合

⑧全仕入れシステムの見直し

⑨委託業務の全面的見直し

⑩新規事業の検討

2007年の標語

「真心で  
伝わるやさしさ」

言葉と態度

職員からの80数点の応募作品の中から管理会議で選定したこの2007年の標語は、医療の原点を私たちが見失うことのないように今年一年語りかけてくれることでしょう。

## 安心医療を目指して

私たちに期待されているのは、必ずしも特殊な医療技術や、高価な医療機器ばかりではありません。技術を越えた人間性や、組織としての人間力が問われています。大切なことは、そのことが私たちの重要な存在価値の一つであることを忘れないようにすることです。期待を少しでも上回ろうと、心を合わせ努力することが、受診された皆様の納得や安心、幸せにつながり、結果として病院経営の持続可能性にも深く関わってくるものと考えます。私たち金田病院の経営と組織の健全性、人間力の真価が問われるのはこれからです。

いつも皆様がお寄せくださるあたにかいご支援に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

## 特定医療法人 緑社会 理念「奉仕 仁愛 誠実 研鑽 調和」

### ● 金田病院理念

金田病院は、二次医療圏・日常医療圏の中で、地域の医療機関との緊密な連携のもとに、地域の中核病院として、人々に分かりやすい医療提供体制を構築します。

金田病院の医療提供体制は、急性期医療を基幹とし、「亜急性期医療管理」・「療養病床入院医療管理」を含む医療を担当し、地域医療の完結に寄与します。

### ● 基本方針

- 金田病院は、地域の人々に、良質な医療・介護を提供します。
- 金田病院は、地域の人々と、揺るぎない信頼関係を築いて行きます。
- 「個人情報保護法」を厳守するとともにプライバシーを尊重します。
- 根拠に基づく公平な医療を提供します。
- 診療は、医師の説明と、患者様の選択に基づいて行います。

